

平成 27 年 3 月 13 日

各 位

神奈川県横浜市港北区綱島東五丁目 8 番 8 号
株 式 会 社 山 王
代 表 取 締 役 社 長 甲 山 文 成
(コード番号：3441)

問 い 合 せ 先 専 務 取 締 役 鈴 木 啓 治
管 理 本 部 長
電 話 番 号 0 4 5 (5 4 2) 8 2 4 1

平成 27 年 7 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想数値と実績数値との差異、通期連結業績予想の修正および特別損失の発生に関するお知らせ

平成 26 年 9 月 12 日に公表した平成 27 年 7 月期第 2 四半期連結累計期間（平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 1 月 31 日）の業績予想数値と、本日公表の実績数値との差異につきまして、下記の通りお知らせいたします。

さらに、最近の業績動向を踏まえ、平成 26 年 9 月 12 日に公表した平成 27 年 7 月期通期の業績予想を下記の通り修正するとともに、特別損失を計上することになりましたのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想との差異について

平成 27 年 7 月期第 2 四半期連結累計期間の業績予想数値と実績値との差異（平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 1 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円銭
前回発表予想(A)	3,600	△ 30	△ 30	△ 50	△ 10.83
当第2四半期実績(B)	3,901	△ 54	△ 44	△ 974	△ 211.16
増減額(B-A)	301	△ 24	△ 14	△ 924	
増減率(%)	8.4	-	-	-	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成26年7月期第2四半期)	3,708	△ 13	△ 16	△ 35	△ 7.79

差異の理由

第 2 四半期連結累計期間につきましては、スマートフォンやタブレット端末等の IT 機器向けの受注が好調に推移したことから、前回予想に対し売上高は増収になりました。

損益面では厳しさを増す得意先の単価引き下げ要求に対して、工程改善等の原価改善活動を進め、旺盛な部品需要に対応すべく積極的な受注活動を行ってまいりましたが、価格下落等の市場環境悪化を補うには至らず、営業利益、経常利益ともに前回予想を下回りました。

また、中国セグメントについては、めっき加工工程で歩留りが低下しており、収益性の回復に向けて時間を要する見込みから、固定資産について将来キャッシュ・フローの見積期間にわたり回収可能性が認められないため減損損失を計上いたしました。

以上のことから、当第 2 四半期連結累計期間の売上高は 3,901 百万円（前回予想比 8.4%増）となり予想を上回りましたが、営業損失は 54 百万円（前回予想は営業損失 30 百万円）、経常損失は 44 百万円（前回予想は経常損失 30 百万円）と予想を下回りました。四半期純損失については、減損損失 895 百万円の特別損失計上等により、974 百万円（前回予想は四半期純損失 50 百万円）となり、大幅に予想を下回りました。

2. 通期連結業績予想の修正について

平成 27 年 7 月期通期連結業績予想の修正（平成 26 年 8 月 1 日～平成 27 年 7 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	7,500	85	90	50	10.83
今回修正予想(B)	7,900	85	90	△950	△205.81
増減額(B-A)	400	—	—	△1,000	
増減率(%)	5.3	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成26年7月期)	7,334	36	42	29	6.49

修正の理由

通期業績見込みにつきましては、スマートフォンやタブレット端末などの IT 機器向けの市況は引き続き好調であるため、生産体制のより一層の強化を進め、積極的に収益性の高い受注の獲得を行っていくことで、売上高は 7,900 百万円（前回予想比 5.3%増）と増収を見込みます。また、営業利益、経常利益については、売上の拡大に加えて原価改善活動の進展による第 3 四半期以降の収益力の強化を見込み、前回予想を据え置きます。当期純損失については、減損損失計上等により 950 百万円（前回予想は当期純利益 50 百万円）に予想を修正いたします。

3. 特別損失の発生について

（減損損失について）

平成 27 年 7 月期第 2 四半期において、中国セグメントでめっき加工工程で歩留りが低下しており、収益性の回復に向けて時間を要する見込みから、固定資産について将来キャッシュ・フローの見積期間にわたり回収可能性が認められないため、減損損失 895 百万円を特別損失として計上いたしました。

（関係会社出資金評価損について）

平成 27 年 7 月期第 2 四半期において、減損損失等を計上した結果、当社の保有する山王電子（無錫）有限公司に対する出資金の実質価額が著しく下落したため、当該出資金について、帳簿価額を実質価額まで減額し、出資金の減少額 1,070 百万円を特別損失として計上いたしました。

なお、関係会社出資金評価損については、連結決算においては内部消去されるため連結損益への影響はありません。

以上